

『神に喜ばれる礼拝を』（ヘブル人への手紙 12章 25-29節）2022.1.23.
<はじめに> より良い礼拝のために、場所、時間、内容やスタイル、雰囲気や分かりやすさなど、論じるポイントは多岐です。しかし、礼拝(奉仕)は神に向けて、神のためになされることを忘れてはなりません。神に喜ばれる礼拝(28)は、神が如何なる方かを知ることから始まります。

I 語っておられる方(25)

①昔から今に至るまで(1:1-2)

神は古から今に至るまで人に語り続けておられます。直接人にご自身を顕現されて語られるだけでなく、御使い・夢・幻・不思議と奇蹟・歴史の出来事を通して語られます。書かれた律法や預言などとともに、終わりの時には御子イエスを世に遣わして語られます。

②拒まないように(25)

シナイ山麓で警告を受けた民の姿から、私たち自身の態度も吟味しなければなりません。私たちに与えられる勧告と警告を拒むとき、どういう心境でしょう。「自分は大丈夫、わかっている、うるさいな」などの根底には誤解と高ぶりがあり、神はそれを見過ごされません。

③語り手を知る

語られる事柄以上に、語られる方への私たちの理解と信頼が問われています。私に語られる御方が聖い愛と真実に満ちた英知に富む方であると信頼できるなら、たとえ語られることがすべて理解納得できなくても、そのことばを受け取り、従えるのではないのでしょうか。

II 揺り動かす方(26-28)

①天地は消え去る(26-27、マタイ 24:35)

「あのとき」はシナイ山が激しく震えた律法賦与(出エジプト 19:18)の時です。「もう一度…」はハガイ 2:6 の終末的預言です。「天地は消え去ります。しかし、わたしのことばは決して消え去ることがありません」と主も言われます。その日は確実に近づいています。

②残るもの(27-28)

外見がどうであれ、一瞬の地震でその建物の真価が露わになります。崩れたものは取り除かれ、耐えたもののみ残ります。天の御国は永遠不朽です。その永遠にふさわしい真価を持つ者のみ、御国を受けます。そのために神は天地万物を揺り動かされ、試されます。

③その日は火とともに現れ(I コリント 3:13)

私たちは現世しか見ていませんから、人が築き上げたものをこの世の尺度で判断します。しかし聖書は「その日は火とともに現れ、この火が、それぞれの働きがどのようなものかを試すからです」と語ります。「私たちの神は焼き尽くす火なのです」(29)。

III 焼き尽くす火(28-29)

①さばきの火

聖書で「焼き尽くされる」多くは、逆らう罪人への神の最終審判です。神は事前に警告を与えて、悔い改めるように促されますが、それを拒み続けるなら処罰を免れられません。このことから、神はどんな御方だと言えるでしょう。

②きよめる火

律法では、礼拝者がささげた全焼のいけにえは焼いてすべて煙にします(レビ 1:9 他)。礼拝者のすべては神のものであることの表明で、煙は祈りの象徴です。目に見える朽ち行くものを神の御前にささげるとき、火によって焼き尽くされ、聖なるものに変えられます。

③神に喜ばれる

神は、私たちを揺り動かされない御国に迎え、永遠にともに住まい、ともに生きることを切望されています。この世に生きる私たちを、やがての御国に相応しく整えるために、罪を赦すためにイエスの血を、罪をきよめ天的な聖いものに神は変えてくださいます。

<おわりに> 私たちの歩みは天的、霊的な御国に向かって進んでいます。目に見える地上に慣れ親しんだ私たちを、揺り動かされない御国に相応しく整えようと、神はあらゆる機会を用いて語り掛け、働き掛けてくださいます。感謝しつつ御前に進み出ようではありませんか。(H.M.)